

南海トラフの地震活動に関する長期評価の 一部改訂について

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、将来発生すると想定される地震の場所、規模、発生確率について評価し、これを長期評価として公表しています。「南海トラフの地震活動に関する長期評価」の第一版は平成13年に、第二版は平成25年に公表されました。

この度、南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）の公表後に得られた最新の知見をもとに、**地震発生確率に関する部分のみの見直し**が行われ、第二版の一部改訂として公表されました。

Q 一部改訂によって、何が変わったの？



今回の改訂によって、地震発生確率の値が変わりました。ただし、これは計算手法等が見直されたことによるものであり、危険度が急に高まったわけではありません。

	計算に用いたモデル	2025年1月1日時点の 今後30年以内の地震発生確率	ランク(※)
第二版	時間予測モデル	80%程度	Ⅲランク
第二版 一部改訂	すべり量依存 BPT モデル (時間予測モデルと BPT モデルを融合したもの)	60%～90%程度以上	Ⅲランク
	BPT モデル	20%～50%	Ⅲランク

(※)ランクとは、地震の発生確率を大まかに分けた区分です。南海トラフ地震のような海溝型地震では、発生確率が高い順にⅢランク「今後30年以内の地震発生確率が26%以上」、Ⅱランク「3～26%未満」、Ⅰランク「3%未満」の3段階と、Ⅹランク「地震発生確率不明(すぐに地震が起こることを否定できない)」に分類されています。また、Ⅲランクは「高い」、Ⅱランクは「やや高い」と表現されることもあります。

Q 一部改訂を受けて、どうすればいいの？



地震の発生確率の値が変わりましたが、前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから約80年が経過している現在では、**次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態であることには変わりはありません。これまで通り日頃からの備えを続けていただければと思います。**

地震発生確率の計算に用いたモデルや計算手法等の詳細は、以下 HP をご参照ください。

→地震調査研究推進本部:南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/

上記内容に照らして、、、

長期評価は、過去に繰り返し活動している活断層で発生する地震や海溝型地震について、その活動履歴などをもとに、ある一定期間内に地震が起こる可能性を確率を用いて予測しているものであり、地震発生を予知しているものではありません。現在の科学では地震を予知することはできません。

だからこそ、日頃からの備えが大切です。

【+α】「予測」と「予知」の違い

予測：観測データや地質調査などの科学的根拠に基づき、将来起こりえる地震の発生確率などを推測すること

予知：地震が起こる「日時、場所、規模」を事前に正確に言い当てること

お知らせ

気象庁では、11月5日(水)10時00分に今年度2回目の緊急地震速報訓練を実施します。6月18日(水)に行われた1回目の訓練は、主に国の機関や地方公共団体を対象としていましたが、2回目の訓練はそれらに加えて民間企業等も対象とし、より多くの方に参加していただける訓練となります。

参加方法

以下のいずれかを利用して、身を守る行動をとってください。

1. 防災行政無線による訓練用の緊急地震速報の放送
※訓練時に放送があるか否かは、お住まいの自治体へご確認ください。
2. 行政機関や商業施設で流れる訓練用の緊急地震速報の館内放送
3. 緊急地震速報の訓練に対応したスマートフォンアプリ等
※緊急速報メールやエリアメールでは報知されません。
4. 気象庁 HP に掲載している訓練用キット(いつでも訓練を実施できます)

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/kunren/eizo/eizo.html>

とるべき行動

- ・物が倒れてきそうな場所等、危険な場所から離れてください。
- ・机の下等、安全な場所に避難して、揺れが収まるまで頭を守ってください。



3つの安全行動(提供 効果的な防災訓練と防災啓発提国会議)